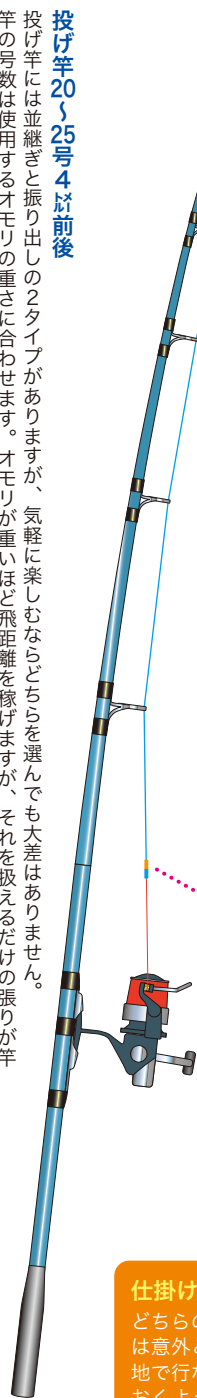


②本格的な引き釣りスタイル

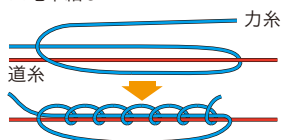
仕掛けを遠投して広範囲を探り、3本以上つけたハリのすべてにキスをつけるスズナリの釣果を目差するのがこのスタイルの醍醐味のひとつです。キャストイングの楽しさとともに、次々と表われる鋭いアタリを体感して下さい

投げ竿 20〜25号 4尺前後
 投げ竿には並継ぎと振り出しの2タイプがありますが、気軽に楽しむならどちらを選んでも大差はありません。竿の号数は使用するオモリの重さに合わせます。オモリが重いほど飛距離を稼げますが、それを扱えるだけの張りが竿に必要となります。かたい竿をしつかりと振り切るには慣れがいるうえ、体力的な負担も大きくなるためビギナーにはおすすりません。まずは軽めの部類である20〜25号のオモリを扱える25号の竿をチョイスするのがよいでしょう。長さは飛距離と自重のバランスが取れた4尺前後がおすすりです。それ以上長ければ飛距離を稼げますが、自重がかさむぶんパワーが要求されます。

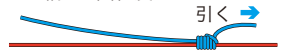


道糸と力糸の結び方

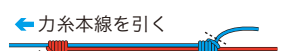
※電車結び



①道糸と力糸を平行に持ち、力糸の端を折り返して輪を作る。道糸と力糸を束ねるようにして輪に6回程度通す



②力糸を引いて軽く締める。結びコブが小さくなってきたらツバをつけ、止まるまで締める。同様の手順で道糸を力糸に結びつける



③両端にできた結びコブ同士がぶつかるまで道糸と力糸を引く。それぞれの余分な端糸をカットすれば完成

道糸と力糸は電車結びで接続

ヒゲは極力カットする。

投げ釣り用スピニングリール

仕掛けを遠くに飛ばせる遠投性と、重いオモリを巻き上げる強いトルクを兼ね備えた投げ専用リールがベストです。キスだけを狙いたいということであれば、ドラッグ機能がないぶん軽量なキス専用タイプを選ぶのもいいでしょう。

飛距離は落ちるものの、一般的なスピニングリールでも使用可能です。巻き取りのトルクの強さを考慮して4000〜5000番の中型を選択しましょう。

仕掛けは事前に準備!!

どちらのスタイルもフグなどの餌取りにハリを取られるなど、仕掛けは意外と消耗します。ただ、小さなハリに細いハリスを結び作業を現地で行うのはとても大変です。そのため仕掛けはあらかじめ組んでおくようにしましょう。1日釣るなら最低でも15セットは持参したいところです。それが面倒であれば、市販の仕掛け(チョイ投げならハリスつきのハリ)を購入するといでしょう。

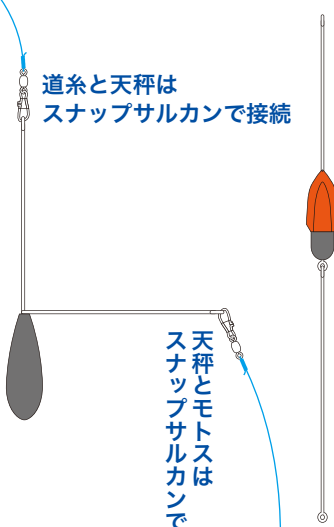
道糸: P E 1.5号前後 (+力糸)

ラインはナイロンと比べて引っ張り強度が高いぶん細号柄を使えるPEを用いるのがおすすりです。細いぶん飛距離を稼げる、ほとんど伸縮しないためアタリの伝達力に優れるという特性を投げのキス釣りで生かさない手はありません。

PEと聞けば糸ガラムシなどのトラブルの多さが懸念されますが、重いオモリを引くためにラインが常に張る状態となる引き釣りではほとんど心配ありません。

太さは1.5号が標準です。ただ、キャスト時には重い仕掛けの負荷がガイドに接している部分の道糸に集約され、瞬間に切れることがあります。その不具合を抑えるためにPEの先に力糸をセットします。その力糸として一般的に使用されるのは、細いPEとも結束しやすいテーパーライン(2→10号という具合にテーパー状に太くなる)です。細い方の号数の表記が、使用する道糸の太さに近いアイテムを選びましょう。

道糸と天秤はスナップサルカンで接続



天秤とモトスはスナップサルカンで接続

オモリ: 固定式のL型天秤、ジェット天秤20〜25号

チョイ投げと同様の理由で固定式のL型天秤を使うのが一般的です。また、飛距離は落ちるものの、オモリが固定されていないぶんアタリの伝達性に優れた、固定式と遊動式の間の特徴を持つ半遊動オモリを使用するのもよいでしょう。このタイプは仕掛けを引くと天秤が直線になることから海藻帯でのすり抜け性能が高いという利点もあります。また、代表的なジェット天秤には早く浮き上がるという特徴があり、シモリ帯などでの根掛かりの低減が期待できます。

なお、道糸やハリスとの接続はスナップサルカンを使うのがおすすりです。状況に応じてオモリの号数や仕掛けを交換する際にスムーズです。

モトス: フロロ3号、ハリス: フロロ1〜1.5号 (仕掛けの全長は2尺前後)

素材は、張りが強いぶんカラミを抑えられるという利点があるポリエステルを用いるベテランも多くいますが、食い込みや潮なじみなどを総合的に考えるとフロロを用いるのがベターです。

モトスの号数は3号を基準にし、キスの活性がわるいと感じれば潮なじみがよりよい細号柄にしましょう(底が荒い場所ではむやみに細くしないこと)。

仕掛けの長さはハリ数によってかわります。扱いやすい3〜5本バリなら2尺ほどが標準です。慣れれば徐々にハリ数を増やした全長の長い仕掛けにチャレンジするといでしょう。

ハリスの長さは3〜5号が目安。間隔は釣れたキスが他のハリに干渉しないように30〜40号ほど取りましよう。

キスバリ7〜10号

チョイ投げスタイルと同様です。大型のキスが期待できる場合は9〜10号を選択しましょう。